

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は 19.0 点で、昨年度より 6.1 点下がった。全分野を通して、基本的事項の定着が十分とは言えず、社会的事象に関してその内容や背景について適切に表現する力や、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて思考・判断・表現する力に課題がある。また、歴史的分野において、各時代の特色を踏まえ、歴史の大きな流れを捉える力が十分ではない。

(1) 平均点(50 点満点)の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
平均点	19.0	25.1	23.4	24.9	19.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
地理的分野	36.8	65.7	54.3	46.2	40.1
歴史的分野	37.1	31.8	49.7	43.3	34.9
公民的分野	42.0	55.2	47.4	61.6	50.9

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞① 社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解させること。【12, 25, 31(3)など】

社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解していないため解答できていない誤答が多くみられた。正確に理解させるためには、特徴や特色、因果関係など、どのような点に着目すればよいかを教科書を踏まえて明確に示すとともに、復習や振り返りの中で、学習内容を表現させて確認する場面を設けて丁寧に指導することが大切である。

☞② 資料等を活用して思考・判断・表現する力を付けさせること。【41(2), 62(3)など】

資料から読み取った情報と既習事項とを関連付けて、論理的に表現する力が十分でない。授業の中で資料を読み取る際には、資料から得た情報を整理し、既習事項と関連付けて考察し、自分の考えを持つことが重要である。その上で、自分の考えを論理的に説明できるように、根拠を示しながら表現する活動を繰り返し実施することが必要である。

☞③ 各時代の特色を踏まえ、歴史の大きな流れを捉える力を付けさせること。【23, 4, 54】

我が国の各時代の特色や、それを踏まえた歴史の大きな流れを捉える力が十分ではない。各時代の特色を理解するためには、政治、経済・社会、文化などの面から、各時代を多面的に考察して、各時代のつながりや違いを把握することが重要である。その上で、時代ごとに略年表を作成するなどの活動を行い、時代を大観することで歴史の流れを捉えさせたい。

問 題			正 答			正答率	誤答率	無答率
1	1	(1)	エ			57.8	40.7	1.5
		(2)	イ, ウ			20.6	79.4	0
	2	シラス				22.4	75.3	2.3
	3	ア				26.2	73.5	0.3
	4	(例) 東京都は、周辺の県と比べて、大学・大学院数や事業所数が多い一方で、住宅地の平均地価が高いため、周辺の県に住んで昼間だけ東京都に通学や通勤をする人が多いから。				45.8	37.2	6.1
2	1	ウ				66.6	33.1	0.3
	2	(例) 天皇を頂点として、皇族・貴族や役人たちが全國を支配する中央集権国家をつくるため。				46.1	40.2	9.9
	3	イ				25.2	74.8	
	4	ウ → ア → イ → エ				26.0	74.0	
	5	工場制手工業				16.3	65.9	17.8
3	1	(1)	ウ			72.0	27.7	0.3
		(2)	ア			45.8	53.9	0.3
		(3)	(例) 最高裁判所長官を指名する。			14.5	71.5	13.5
	2	(例) 体育館と音楽室の空きが全くないように、無駄なく使用できている。				15.5	73.0	11.2
		部分点				部分点	0.3	
	3	教育				65.9	32.1	2.0
4	1	(1)	名称	大西洋			44.8	0.8
		記号		C				
	2	(2)	(例) 大西洋を北上する暖流の北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けるため。			20.9	61.8	14.0
		(3)	部分点			3.3		
	3	イ				28.8	71.2	0
5	2	エ → ア → イ → ウ				37.2	62.5	0.3
	3	a	ウ	b	ア	c	イ	54.2
	1	(例) 日本では、外国と比べて、少ない量の銀で同じ量の金と交換することができたから。				44.5	40.0	9.9
	2	部分点				5.6		
	3	X	朝鮮	Y	ロシア		44.5	55.5
6	4	エ → ウ → ア → イ				28.5	70.2	1.3
	5	部分点				12.5	87.2	0.3
	1	石油危機				60.8	29.8	9.4
	2	(1)	A	企業	B	家計	41.5	57.5
	2	(2)				部分点	36.6	2.3
7	2	記号			エ	54.2	44.8	1.0
		(3)	(例) 出産等のため 25 歳から 34 歳にかけての就業率が一度低下するア～ウが女性のグラフであり、2020 年は、その中で就業率が最も高いから。			39.2	56.7	4.1
		理由	部分点			9.9	79.9	9.4
			0.8					

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 393 人分の答案を対象として算出した。